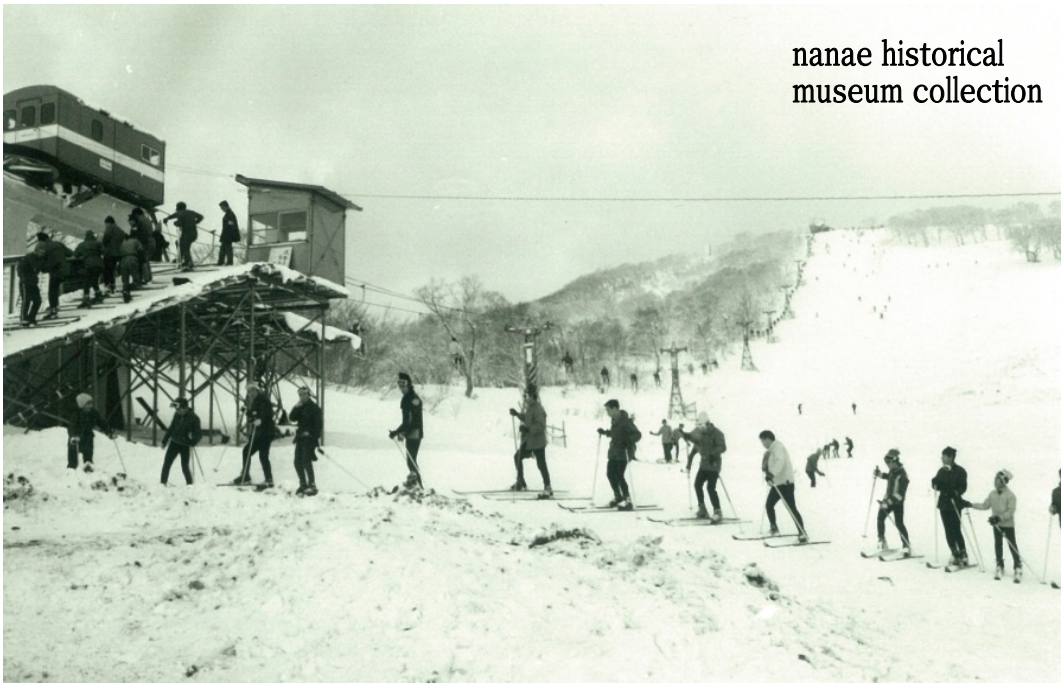
Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第157号



ななえ古写真物語
VOL.157

鹿のいるところ

横津国際スキー場

昭和４７年

大中山地区

七飯町には千メートルを超える山が二つある。一つは風光明媚で知られる駒ヶ岳（1,131m）そして、もう一つが横津岳（1,167m）である。『大中山四百年誌』によると、「横津」の語源はアイヌ語の「ユックオツ」（鹿のいるところ）に由来し、それが転化したものと説明がある。この書物が編纂されたころにいた古老の話には、明治35年ころまでは、年に３頭くらいの鹿をとったという。

確かに、現在もエゾシカを見かけたり、姿を見ないまでも特徴ある糞や、樹皮が食べられた跡がそこかしこに見られるので、なるほどとうなずける。

江戸時代に蝦夷地を踏査した松浦武四郎の『蝦夷日誌』には、横津岳ではなく「大川岳」と記載されていることから、少なくとも横津という言葉は、近代になってから使われたのではなかろうかと想像する。また武四郎は「山上に池があり清水が溢れ出ていて、実に名山だという」と、現在の「雲井沼」についても記載しているのが、印象深い。

現在も多くの高山植物がみられ、いくつかの高層湿原も存在することから、ワタスゲなどの湿性植物も楽しむことが出来る山である。

昭和46年、東海不動産株式会社によって、この横津岳にゴルフ場（函館カントリークラブ）や横津岳国際スキー場が開設された。眼下には函館や津軽海峡を挟んで遠くに津軽・下北半島が見渡せるロケーションである。その他、プラネタリウムを完備した「横津岳自然と青少年のロッジ」やアーチェリー場、SL公園、ファミリー牧場なども敷設され、麓からスキー場のある頂上付近までを、「函館グリーンランド」と称する一大レジャーランドとして開発された。私事で恐縮だが、スキー場はナイター設備が完備されているので、函館の夜景に向かって滑降するという格別な景色だったことを記憶している。

ところが、もともと山道を走らなくては辿りつけないスキー場は、やはり不便だったのだろう。現在は閉鎖となり、ゴルフ場はメガソーラーの発電施設へと変貌した。その他の施設もなく、開発の傷を癒すように、ヤナギなどが繁茂する森へと姿を変えた。

かつてスキー板を積んで走った山道を今は虫捕り網を持ちながら歩いていたら、栄枯盛衰という言葉が脳裏をよぎった。かつての賑いは写真に見ることが出来る。

日進月報 <2020.12>

冬の暮らしとあそび

子どもたちが外で「そり」や「ミニスキー」などで遊ぶ姿を見ることが少なくなってきたように感じます。時折、そりに乗せられて、大人に引っ張ってもらう小さな子どもを見ると、何だか微笑ましくなるのは、自分の幼い頃の記憶が心象に深く刻まれているからかも知れません。さて、右の写真の「そり」は当館に収蔵されている子ども用のもの。木製で、背もたれがついているのは共通していますが、下の「そり」はスチール素材の枠組みでよりしっかりとした作りです。煌びやかなプラスチック製の「そり」も悪くはないですが、温かみのある木製のものは趣きがあります。もう一つ冬の暮らしの必需品は、一番下の写真、「雪かき」です。素材は全て竹で作られていて、１９７３年に寄贈されたものです。人々の生活に寄り添い、地域の特質に合わせて、素材もずいぶんと変化をしました。常設展示室には、まだまだ冬の暮らしの道具が展示しております。素材の違いや使い方に注目してご覧いただければと思います。

標本の引き出し

学習サービス室の入口近くの引き出し、既にご覧になった方もいるかと思いますが、昆虫や植物標本類を自由に見ることができます。さく葉標本と言われる植物標本は、町内をはじめ、道南地域のものが４００種ほど、昆虫類は水生昆虫や蝶類などがあります。昆虫は、まだまだ他にも館内の標本棚に大切に保管されています。興味のある方は、是非お声掛け下さい。昆虫や植物に会えない冬の間も標本は美しい姿を保っています。

２月の予定

1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	建国記念の日
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	ピチャリ158号発行
21	日	
22	月	
23	火	天皇誕生日
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	ジュニア探検クラブ
28	日	

※２月の休館はありません。

べこもち

口にすることは、たきやれ、餡一度は食べる間色表から出るべこもちは、ある外にて話は、色のかが道ないっで特もの南のな様なら、と。くと道域ルで地フルまこ一しる民たちかなす。道しも懐くま味カ人

編集後記　～tawagoto～

今シーズンは雪が多い。白一色かと思いきや、雪の上に目を凝らすと、色々なものが舞い降りている。最近よく目にするのは、小さな鳥のような形をした種のようなもので、シラカバの種子の間にあるスペーサーのようなもの。種子をのせて遠くまで運ぶ役割もする。近場にシラカバが生えていないので、遠くから飛ばされてきたのだろう。そういえば、この間、風が強かったなと振り返り、自然の造詣に改めて感心した。　（やまだひさし）

Pichari ～ピチャリ～
第１５７号
令和3年1月20日発行

七飯町歴史館
〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp